

「SIC」とは、そのだインターネットキャンパスの略称です。

そのだインターネットキャンパスは、学習支援の手段のひとつとして挙げられる「e-Learning」を中心とした学習支援システムです。教材作成から講座運営まで総合的にサポートし、SICのシステムを活用して最大限の学習効果を引き出すことを使命としています。

主な記事: ①そのだインターネットキャンパスとは? ②世界のe-Learning体制 ③完全e-Learningの力



そのだインターネットキャンパスとは?

そのだインターネットキャンパスは、開設した当初よりも大きく発展し、様々な学科に取り入れられ、多くの学生が学習してきました。

今年度より、そのだインターネットキャンパスのスタッフが大きく変わりました。そこで新所長に就任した垣東弘一先生よりコメントをいただきました。

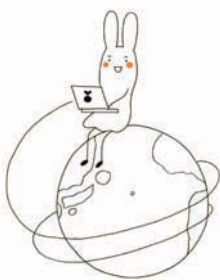
そのだインターネットキャンパスは2000年に本格的にスタートし、2007年度では43科目だった授業数も、現在では71科目になりました。情報を専門的に学習する学科だけではなく、2006年に新設された人間看護学科では多くの先生に利用していただくことができました。

現在そのだインターネットキャンパスの授業形態としては、学生自身がSICで開講されている授業の教材を見ながら自ら学習を進めてく「完全 e-Learning 授業」、教員の授業を中心として、課題等に取り組む「e-Learningブレンド授業」、講義を撮影し、聞き逃した部分などをもう一度閲覧したり、教材を電子化して場所や時間を問わず学習することができる「授業配信型」、その他SICのコンテンツとして高校生を対象にそのだインターネットキャンパスで大学教員の授業を体験する「高大連携」、園田学園女子大学の教員が15分程度の講義を行い映像配信をする「SIC-TV」があります。

e-Learningはこれからも学習において重要なものと考えております。現段階ではSIC上に開講している授業の保持・修正をメインとしていますが、インターネットキャンパスでは今まで様々な用途に合わせた教材作成を行ってきました。イメージしているものが全て実現可能というわけにはいきませんが、今後もそのだインターネットキャンパスならではの学習方法や多くの授業体制を実現していきたいと考えております。

そのだインターネットキャンパス主なコンテンツ

- ・基礎情報
- ・専門科目
- ・高大連携
- ・SIC-TV



世界のe-Learning体制

今年度より副所長に就任しました稲熊孝直先生より、ハワイでの研究発表と世界のe-Learningについてお聞きしました。

今年度より、副所長をさせていただくことになりました、短期大学部生活文化学科の稲熊(いなぐま)です。これまではSICを利用する立場でしたが、これからはその経験を活かして、学生・教員の皆さんが利用しやすいSICとなるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

話は変わりますが、私は6月22日から26日にかけて行われた、World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications (ED-MEDIA 2009)という国際会議で研究発表をしてきました。今回の私の発表は、SICとの関係が薄い内容なのでここでは詳しく述べませんが、65カ国から約1200人もの方が参加したこの会議の中で、私は、Virtual Universities関連の研究発表について関心を持ちました。

SICで利用しているe-learningのシステムは、ネット上の教室というイメージですが、Second Lifeを利用し、ネット上に大学そのものを構築するという研究や活動報告が、アメリカやオーストラリアをはじめとした各国の研究者によって何件も発表されていました。仮想空間上に設置された大学内を、自分の分身であるアバターが移動し、掲示板でお知らせを読んだり、教室に入って授業を受けたりするというのが大変興味深かったので、私もこれから研究してみたいと思います。



完全e-Learningの力

園田学園女子大学では、e-Learningを積極的に取り入れています。e-Learningのメリットとして、パソコンとインターネットに接続できる環境があれば場所を問わず、学習することができます。

e-Learning教材は、文章ばかりの構成ではありません。画像や動画、音声で解説した教材も取り入れることができます。そのため、学習者は自ら進んで学習に取り組むことができます。学習時に教員が身近にいないということは学生にとっては不安が大きいかもしれませんが、SICには教員に向けてメッセージを送ったり、掲示板で教員以外にも同じ学習者に対して意見交換ができるシステムも備わっています。

授業終了後には教員が学習者の課題提出やテストなどの点数、学習状況を把握し、前期・後期で単位認定を行います。意欲的に学習を行った分、成績に大きく反映されることもe-Learningの利点です。

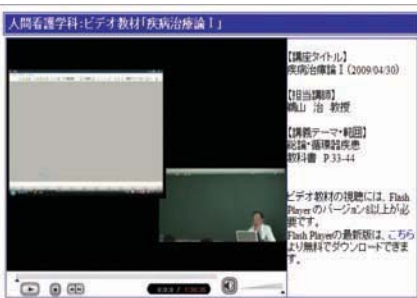


■ e-Learningブレンド型

完全e-Learning型のみでは補えない部分も、講義とe-Learningをブレンドすることにより、お互いの利点のみを使用できるのがこの「e-Learningブレンド型」です。

実際に教員は学習者にe-Learningの説明や講義を行い、その後の課題提出やテスト、授業の復習などはe-Learningで行います。これにより、学習者には教員との対面授業も可能になり、教員は講義では伝えられなかった部分をe-Learning教材で補うことで、通常授業よりも効果的となります。

e-Learningブレンド型は本学の学生一回生の大半が「基礎情報処理」という科目の授業で学習しています。



■ 授業配信型

講義をしている中で、教員の話聞き逃してしまうことや、一度欠席をしてしまうと学習についていけなくなってしまうこともあります。そこで、授業の撮影を行い、SICを使って映像を配信することにより、双方にとっての利点が出てくるのが授業配信型です。

この方法はSICスタッフが撮影・編集・アップ作業を行いますので、パソコン操作が苦手な教員の場合でもSICを活用することができ、学習者も講義と同じ感覚で大学や自宅など場所を選ばず閲覧できます。

- その他 -



■ 高大連携

SICでは、高校生を対象とした「高大連携」事業を行っております。これは、高校生に新たな学習方法で大学の授業を体験してe-Learningの楽しさを知ってもらおうという取り組みのもと行われています。

開講日当日にはSICスタッフが実際に開講式の補助やSICの操作説明等を行うために高校へ向かいます。開講式は実際に本学と高校を結び、テレビ会議システムを使い行います。

高大連携科目を学習して「特別聴講生」として登録され、本学に入学した生徒に関しては、大学の単位認定が行われることになっています。



■ SIC-TV

2007年4月よりインターネットキャンパス上に無料の映像配信を行う「SIC-TV」を開設しています。ここでは、本学の客員教授の伊達公子先生からのメッセージが見れるほか、本学の教員による10分～15分で行われるミニ講義を閲覧することができます。視聴できるコンテンツも一般向け・高校生向けと視聴者層が分かれており、誰でも楽しく講義を視聴することができます。講義映像を見ながら一緒に体験できる番組もあります。

※SIC-TVでは、ご講演していただける先生を募集しています。現在合計35の番組を閲覧することができます。SIC-TV上ではいつもの講義内容を15分ほどに短縮していただき、撮影・教材の作成を行い、番組が完成します。詳しくは、インターネットキャンパス担当：稲峰(内線3053)までご連絡ください。

SIC Information 第5号 2009年7月
編集・発行

園田学園女子大学 園田学園女子大学短期大学部 情報教育センター インターネットキャンパス
発行担当 稲峰加織 TEL:06-6429-9909(内線:3053) FAX:06-6424-2188 <http://www.sonoda-u.ac.jp/sic/>